

保健師間の連携に関するアンケート結果

保健師職能委員会では、2022年2月に、行政・産業・教育・医療・福祉等、各分野で働く保健師間の連携推進を図る上で、保健師が持つ課題・ニーズについて明らかにすることを目的にアンケート調査を行いました。そして、この調査結果を今年度の保健師交流集会の企画に活かすことにいたしました。

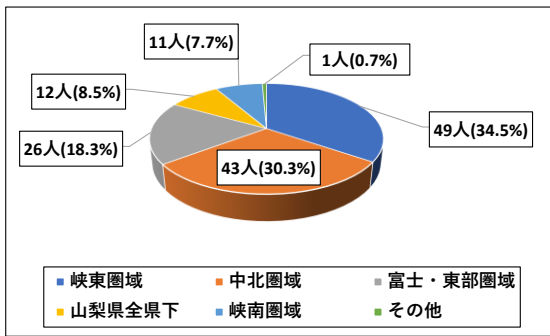
【調査方法】山梨県看護協会会員が所属する施設代表者に調査依頼文書を送付し、所属保健師に Google フォームを用いた調査に協力してくれるよう周知を依頼した。調査への協力同意は自由意思とした。

【調査結果】93施設の代表者と個人会員39人の計132人（会員数501人）に調査協力の依頼を行い、142人から回答が得られた（回収率28.3%）。以下に調査結果の概要を示す。

1. 性別・年齢 (n=142)

性別は、女性が134人(94.4%)、男性が7人(4.9%)、答えたくない1人(0.7%)で、年齢は、40代53人(37.3%)と最も多く、次いで50代40人(28.2%)、30代30人(21.2%)、20代12人(8.5%)、60歳以上7人(4.9%)であった。保健師経験年数の平均は19.3年であった。

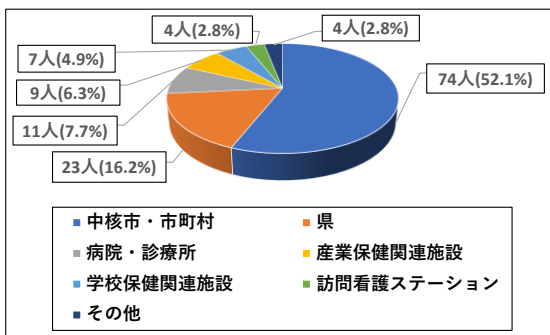
2. 現在の活動地域 (n=142)



活動地域は、「峡東」が最も多く、次いで「中北」「富士・東部」の順に多かった。



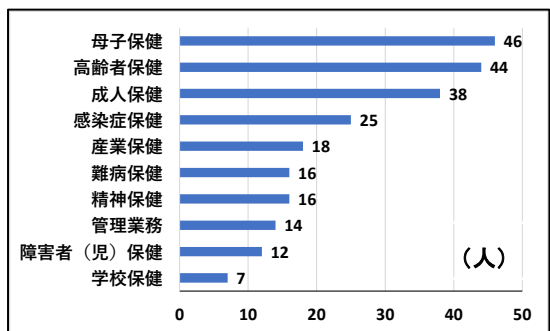
3. 現在の所属施設 (n=142)



所属施設は、「中核市・市町村」が半分以上を占め、次いで「県」、「病院・診療所」の順に多かった。



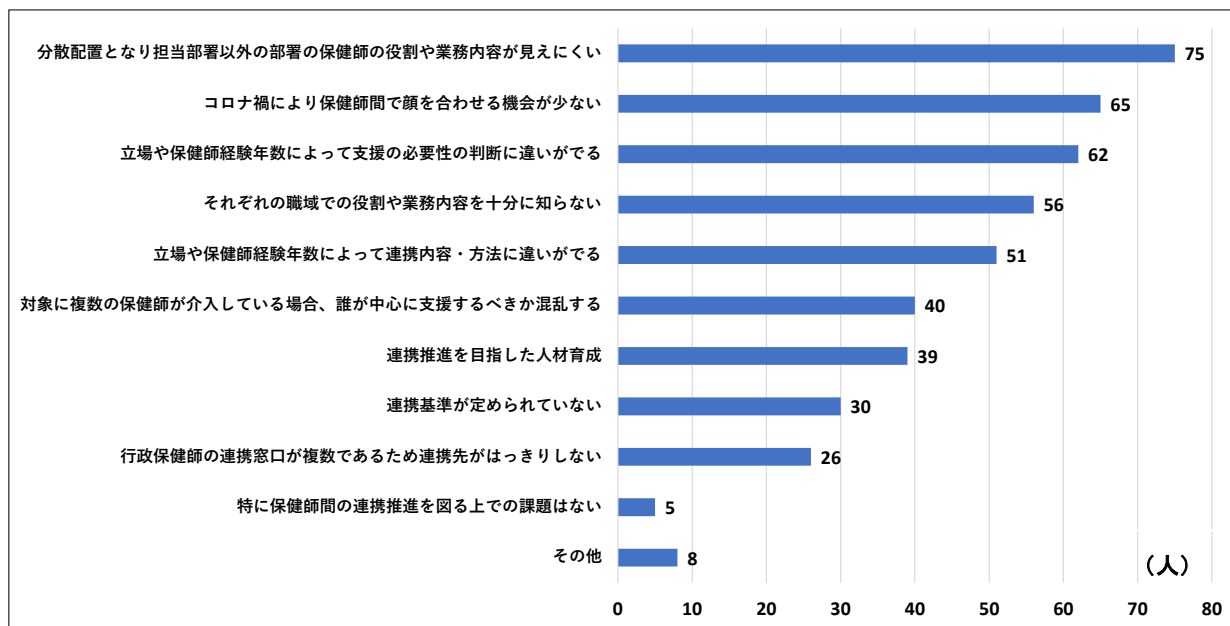
4. 現在の担当分野 (n=142 複数回答可)



担当分野は、「母子」が最も多く、次いで「高齢者」「成人」「感染症」「産業」の順に多かった。

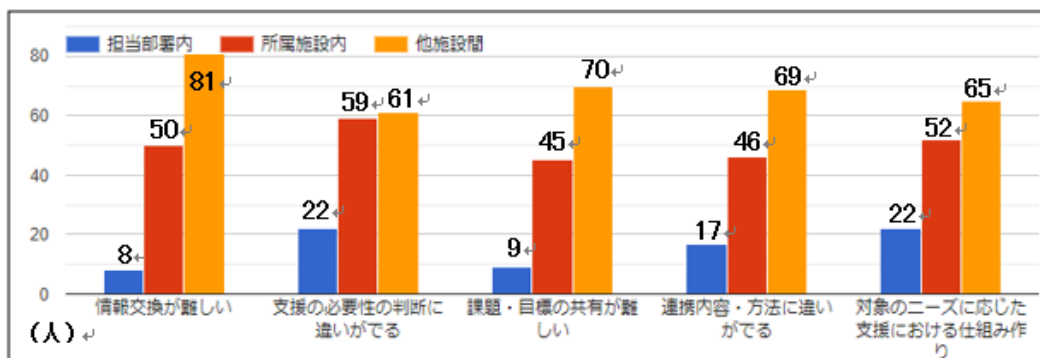


5. 保健師間の連携推進を図る上での課題 (n=142 複数回答可)



連携を図る上での課題は、「分散配置」「コロナ禍」「立場や保健師経験年数」に関連した課題が上位を占めた。

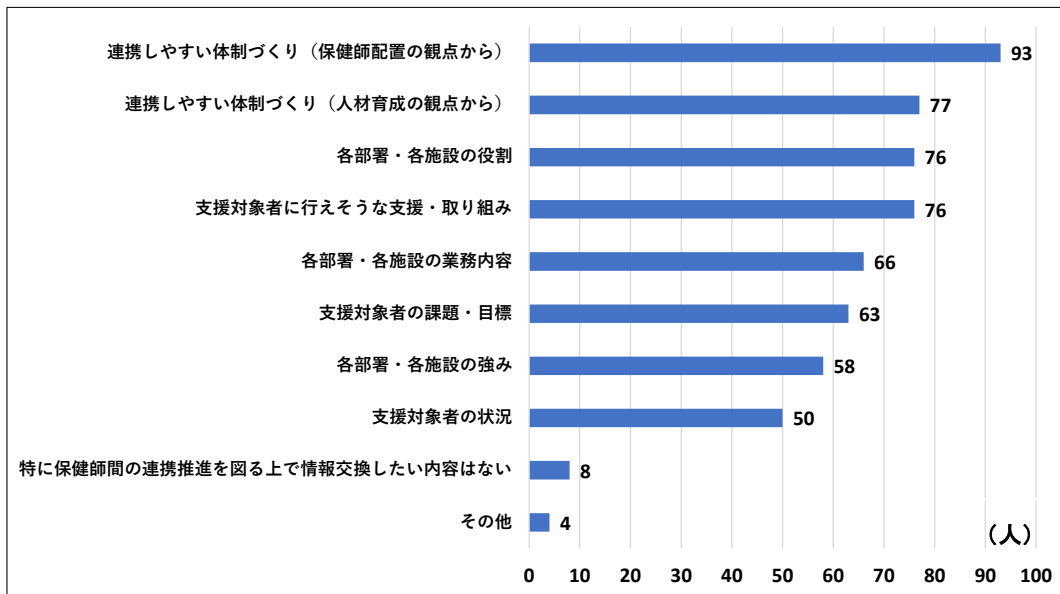
6. 保健師間の連携推進を図る上で、どこでの課題を感じているか (n=142)



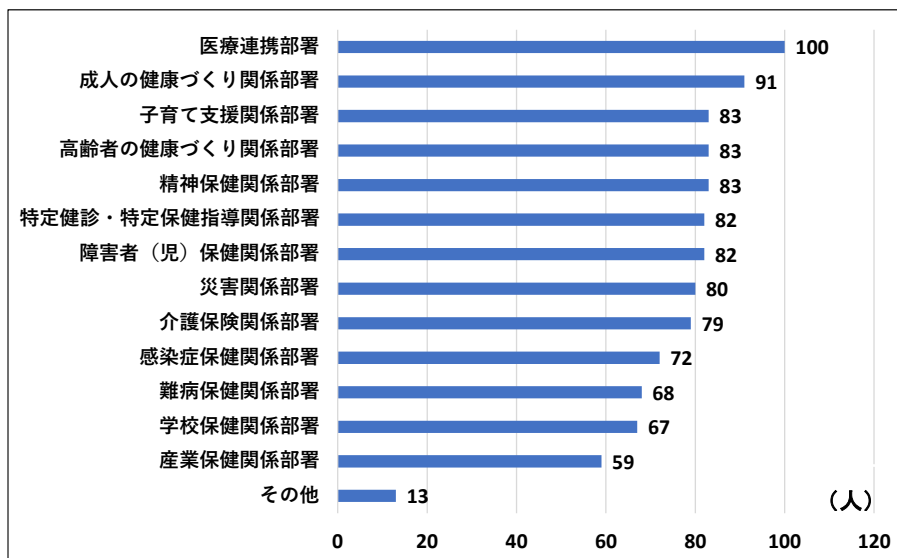
「他施設間」「所属施設内」「担当部署内」の順に連携推進を図る上での課題を感じていた。ただし、ケースへの支援決定の際、「支援の必要性の判断に違いが出る」ことに課題を感じているのは、「他施設間」「所属施設内」で、ほぼ同数であった。

7. 保健師間の連携推進を図る上で、情報交換したい内容 (n=142 複数回答可)

情報交換したい内容は、ケースへの支援に関連した「連携しやすい体制づくり」「各部署・各施設の役割や業務内容」「支援対象者に行えそうな支援・取り組み」が上位を占めていた。



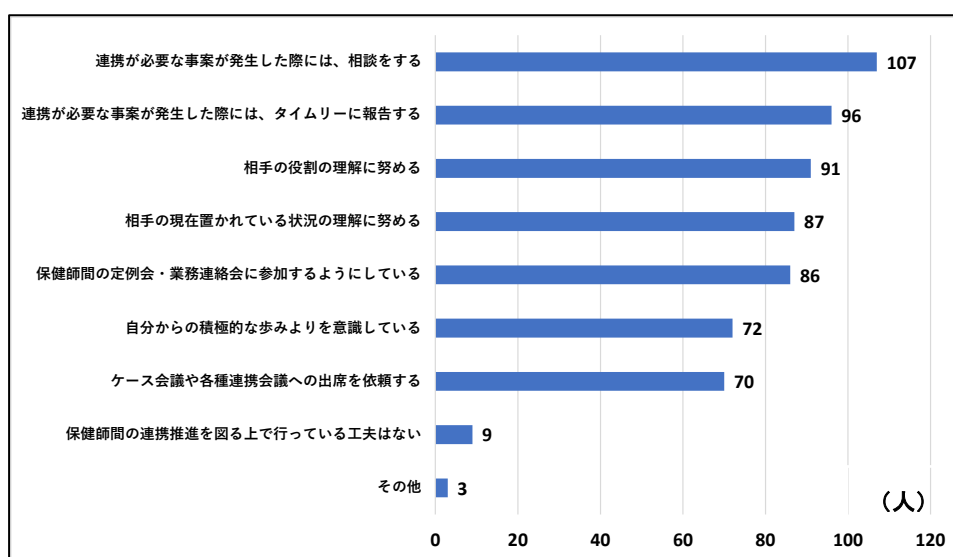
8. 保健師間の連携推進を図る上で、どの部署との連携を図りたいか (n=142)



保健師は、ケースへの支援や体制整備等の日頃の活動を通して、全ての部署との連携は必要不可欠であるが、現在特に連携を図りたいと考えている部署は、「**医療連携関係** (対象者の状況・入退院支援・治療と仕事や学校との両立支援等)」が最も多く、次いで「**成人の健康づくり関係** (対象者の状況・他の地域や事業所の保健事業の内容や方法・地域職域連携等)」「**子育て支援関係** (対象者の状況・要支援家庭の状況・他の地域の保健事業や利用可能な社会資源等)」「**高齢者の健康づくり関係** (対象者の状況・地域性を活かした事業内容や方法等)」「**精神保健関係** (対象者の状況・職場のメンタルヘルス対策等)」「**特定健診・特定保健指導関係** (対象者の状況・他機関の保健指導方法等)」「**障害者(児)保健関係** (対象者の状況・障害サービス事業所の特徴等)」「**災害関係** (平時からの取り組み・他市町村の取り組み・個別支援計画等)」

「**介護保険関係**（対象者の状況・現状や課題・認定状況等の介護保険に関する情報等）」
 「**感染症保健関係**（新型コロナウイルス感染対策に関する情報・対象者の状況・他市町村の取り組み等）」
 「**難病保健関係**（対象者の状況・保健所管内の現状と課題・仕事との両立支援等）」
 「**学校保健関係**（対象者の状況・地域課題の共有と事業化・発達障害・不登校・生活習慣病等）」
 「**産業保健関係**（労働者の健診実施状況と保健指導内容・他事業所や他保険者の取り組み・職場の理解や協力を促す方策等）」の順に多かった。

9. 保健師間の連携推進を図る上でやっている工夫（n=142 複数回答可）



保健師は、保健師間の連携推進を図るために、「連携が必要な事案が発生した際の相談・タイムリーな報告」「相手の役割・状況の理解」「保健師定例会・連絡会への参加」「自分からの積極的な歩みより」「ケース会議・連携会議への出席依頼」という自らの行動や姿勢においての工夫を行っていた。

10. 「保健師職能交流会」で取り上げてほしいテーマについて（n=142 自由記載）

- ・ 交流会のための研修に終わらず、保健師活動全体に波及していくような企画
- ・ 母子、成人、高齢者等の分野ごとの交流会や研修会
- ・ 医療と介護の連携、保健事業と介護予防の一体的実施
- ・ 災害対策
- ・ コロナ禍で学んだ感染症対策
- ・ 人材育成～次世代保健師への技の伝承～
- ・ ワークライフバランス
- ・ 潜在保健師の研修
- ・ 研究発表のまとめ・・・等

2021年度 保健師職能委員

鈴木一美・有賀孝枝・石原布巳
 小川理恵・功刀朱美・須田由紀
 藤原友美・堀内美保・渡邊文子